# 緊急地震速報受信システム 新規導入校の実践報告 14 校

阿智町立阿智第一小学校 1 (西村雄一郎) 阿智町立阿智第三小学校 1 (西村雄一郎) 安曇野市立豊科南小学校 1 (本間喜子) 4 安曇野市立豊科東小学校 1 (廣内大助) 安曇野市立豊科北小学校 ① (島田英昭) 安曇野市立堀金小学校 ① (廣内大助) 6 安曇野市立明科中学校 ① (廣內大助) 1 (廣内大助) 8 白馬村立白馬中学校 ① (本間喜子・気 象 台) 長野市立山王小学校 9 (1) (榊原保志) 長野市立中条小学校 10 長野市立豊野中学校 (別(島田英昭) 11 ③ (榊原保志・気 象 長野市立西部中学校 12 飯山市立木島小学校 1 (榊原保志・気 象 台) 13 長野県木曽養護学校 1 (白神晃子) 14

# 防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業の取組について

― 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練の実施 ―

# 1 阿智村立阿智第一小学校

#### 1 はじめに

本校は、長野県の南部の阿智村にあり、学校の西側は中央アルプスに繋がる山がそびえ、 周りは住宅や田畑に囲まれた閑静な場所に立地している。自然災害というと「地震」や「水 害による土砂崩れ」などが想定される。

学校教育目標を「かしこく、やさしく、たくましく」とし学力の向上、思いやりの育成、 体力の向上に、地域の教育力を活用しながら取り組んでいる。児童数は 167 名で、子どもた ちは、あいさつがしっかりでき、元気に登校してきている。

#### 2 本校の防災体制について(概要)

#### (1) 目標

児童の学校生活や登下校の安全をはかると共に、緊急時には児童の生命を守り、被害の防止をはかる。そのために交通安全教室や避難、防災訓練等を行う。常に児童とともに 安全について考えていく。自分で危険を予測し回避できる力を身につけさせるよう安全指導をしていく。

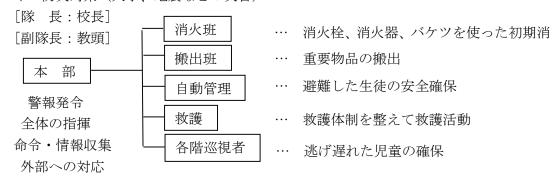
#### (2) 内容

#### 安全計画

#### ア 安全点検

- 1) 毎月1回、月始めの日に点検日を設け実施する。 点検箇所は火気取り締り責任者に準ずる。係が点検、押印する。 その後教頭へ回し不備、危険箇所のある場合はなるべく早く対応する。
- 2) 学期末には、全職員で分担場所の点検を行う。

イ 防災対策(火事、地震などの災害)



# ※実際の火災時には、消防署員の指示に従って係活動を行う。しかし、基本的に職員 も火災現場には戻らない。児童の安全、自身の安全を最優先する。

ウ 避難方法(避難図を管理教室に掲示しておく)避難後は全校集会と同じ隊形で並ぶ。 【授業中】

- 1) 理科室側が火災発生の場合
  - ・2階→集会室玄関へ
  - ・ 3 階教室 →昇降口玄関へ
  - ・1階教室 →家庭科室 →校庭へ
  - ・集会室・図書館 →集会室玄関 →校庭へ
  - ・理工室、体育館 →草捨て場 →校庭へ
- 2) 家庭科室側が火災発生の場合
  - ・2階教室、集会室・図書館 →体育館 →草捨て場 →校庭へ
  - ・3階教室 →理科室 →校庭へ
  - ・1階教室 →理科室 →校庭理工室、体育館 →草捨て場 →校庭へ
  - \* 授業者 : 児童を速やかに整列させ、指示に従い引率して避難させる。 授業以外の職員: 担任も校庭に移動し、校庭で授業者から引き渡し。

#### 【授業以外】

・各階非常集合場所に集合の後、校庭に避難する。校舎外にいた場合は、直接校庭へ 避難する。(<u>体育館入り口の石段は使わない</u>)

非常集合場所は各階の東西にあり。体育館にもあり、全部で7ヵ所 年度初めに 子どもと共に確認をしておくこと

《緊急地震速報が作動した場合》

① 業中

担任・授業者: 机の下にもぐらせて、次の指示を待つように指導する。

② 休み時間 清掃時間

自分で考え、より安全な場所に避難できる子を育てるために、次のような指導を行って おく。

- ア 落下物を避けられる場所に避難する。
- イ 移動しやすい物 壊れやすい物の下には避難しない。
- ウ 階段 廊下にいる子は、できるだけ近くの教室に避難する。
- エ 頭を低くして守る。 おしゃべり笑いは厳禁。 持っているものは離す。

#### 3 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

- (1) 緊急地震速報受信機設置に関わる取組
  - ① 教職員に対する説明、研修

ア 10/25 (水) の職員会議に於いて、避難訓練実施計画の説明にあわせて、職員室に設置してある「緊急地震速報受信機」の説明を教頭が職員に説明した。実際に音声を確認しながら説明を行った。

② 児童に対する説明

ア 10/25 の職員会議で避難訓練の計画案を説明した後、緊急地震速報が

※4月当初、自分の分担場所の消火器や消火栓がどこにあるか確認し覚えておくこと。

鳴ったらどのように行動するか場所や状況にあわせて担任から具体的に説明した。

(2)緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

#### (1)ねらい

ア 地震発生の時、教師の指示を待たずに、自ら判断し避難行動できる子どもを育てる。 イ 子どもたちの避難の方法を検証し、より安全な避難方法を確立する。

# ②日時 11月20日(月) 休み時間

#### ③訓練方法

# ア 事前指導(訓練の日時は知らせない。)

各学級で、学活の時間等を使って次のような指導を行う。

- 1) 地震発生の時どのように避難したらよいか子どもたちと考え、指導する。
- 2)「上から物が落ちてこない」「横から物が倒れてこない」「物が移動してこない(キャスター付きは危険)」場所を探して避難する。
- 3)窓ガラスや棚から離れ、そちらにお尻を向けてダンゴ虫のポーズで揺れがおさまるのを待つ。
- 4) 隠れるものがない場所では、低い姿勢で頭を守る。
  - ※ 友だちの動きを見て真似することは良いが、話し合ったり友だちに指示したりすることはしない。

#### イ 訓練

時間	内 容	児童・教師の動き
10:40	<ul><li>教頭が緊急地震速報の音源を流す。</li></ul>	・児童は、緊急地震速報が聞こえたら、 すぐ自分で判断して避難行動をとる。
10:42	・教頭は校内放送で伝える。 「訓練を終了します。遊びや当番活動 に戻ってください。」繰り返す。	・教師は、下記分担場所で子どもたちの避難行動を観察する。指示はしない。

### (分担場所等)

	集合場所(今回は集合しません)	分 担
1階	放送室前 廊下	西側:保健室・東側 (校長室:校長、職員室:教頭)
2 階	低学年教室前 廊下	東側:中央:西側:
2階・図書館	集会室	図書館・図書館前廊下
3 階	児童会室前廊下	東側
体育館	体育館	
中庭	1階と合流	
校庭	校庭	各階窓から様子を見てください。

#### ウ 事後指導

- 1) この日のうちに一人一人の子どもがどのように避難行動をとったかを調査する。 避難行動について、問題があれば子どもたちと話し合い事後指導を行う。
- 2) 反省用紙に、子どもたちの避難行動をまとめて提出する。(用紙は係が準備)

#### 落下物・転倒物を事前に確認しておく。 避難法の確認

- ・階段 各階の廊下は、出来るだけ近くの教室の机の下に避難する。
- ・落下物を避けるため、校庭は校舎・ナイター照明等から離れ、なるべく中央 へ避難する。
- ・体育館は、天井が落下することも考え、壁側(ギャラリー下)に避難をする。
- ・頭を低く下げて守る。
- おしゃべり 笑いは厳禁。
- 持っているものは離す。

#### 学校防災アドバイザーの関わり

- 11/20(月)の避難訓練を見ていただき、教頭と安全係が後指導をうけた。 また、教頭がアドバイザーと共に学校内の安全点検を行い、その場や点検後 指導を受けた。
- 学校防災アドバイザーの指導
  - ① 避難訓練ついて(体育館で避難訓練を見学)
    - ア 緊急地震放送、地震音の理解はできていた。放送後直ちに体育館のグランド側へ 走り低い姿勢をとった。
    - イ 放送を黙って聞くことができている。
    - ウサイレン音と同時にすぐ行動に移した方がよかった。
      - 1) サイレン音・・・大きな地震の前ぶれ
      - 2) 身の回りで安全な場所への避難、退避行動

#### 【授業中の場合】

- ・避難路にあたるドアを開ける。
- できればカーテンを閉める・・ガラスの飛散を防げる

#### 【休み時間】

- ・廊下は、安全な所を明記しておく(飛散防止フィルムの貼ってある場所側) ※校庭へでるより耐震性の校舎の方が安全
- ② 各場所の防災対策について

# ア 各教室

- 1)ドアの飛散防止フィルム貼付は良いが、その上のガラス窓にも貼りたい。
- 2)避難経路に当たるところには最低飛散防止フィルムを貼りたい。
- 3)つり下げ式の蛍光灯は危険・・・来年度天井工事で改修予定

#### 事業の成果及び今後の課題

- (1) 成果
  - 緊急地震速報受信機が設置されたことにより、瞬時に全校児童へ緊急地 震速報が伝わるようになった。
- 速報を聞き、状況に応じ素早く対応できるようになってきている。 アドバイザーの指導により、普段見落としがちな危険箇所を確認できた。 (2)今後の課題>
  - ① 児童は緊急地震速報が鳴ったらすぐに行動に移せるよう日頃から速報に なれるよう訓練する必要がある。
  - 防災アドバイザーによる危険箇所の指摘に対応できるよう村当局と耐震 状況等を確認し予算措置を講じたり、職員作業等で改善する必要がある。

#### 6 まとめ

緊急地震速報受信システムの導入により、職員の防災に対する意識が高まって いるので、継続的に研修を行っていくこと大切だと考える。

( 文責 教頭 青嶋住夫 )

# 防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業の取組について — 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 —

# 2 阿智村立阿智第三小学校

#### 1 はじめに

本校は、県南の下伊那南西部に位置し、豊かな自然に囲まれた山間地域に立地している。 現在、児童数46名、教職員は12名の小規模校である。開校以来、大きな災害や震災には見 舞われていないが、村が作成したハザードマップによると学区内には土砂災害警戒区域 を多く抱えており、安全な地域とは言い切れない。

本年度「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」の指定を受け、「緊急地震速報システム」を設置した。地震対応マニュアルは毎年確認してきてはいるが、本年度この事業において学校防災アドバイザーの助言をいただきながら、本校の実態に合ったものにしていきたい。また、いざというときに自ら判断して行動できる児童の育成を目指した取り組みを始めたところである。

# 2 本校の防災計画・防災体制について

(1) ねらい

避難訓練をすることを通して、災害時に速やかな避難ができるようにし、児童の安全を守るとともに、普段から火災や災害に対する体制を整える。

- (2) 仕事の内容
  - ① 避難経路の確認 避難経路は教室前面の壁に明示しておく。
  - ② 防災設備の管理点検を行う。
  - ③ 避難訓練(火災想定、地震想定)の計画と実施、反省をする。
- (3) 年間の主な計画
  - 4月当初 避難経路の確認と指導(各クラス・各管理責任者) 防災設備の確認・点検(係・各管理責任者)
  - 4月中旬 避難訓練① 基本的な避難経路の確認(火災を想定) 引き渡し訓練 (交通安全教室と同日)
  - 9月初旬 防災訓練(地震想定)※シェイクアウト訓練の実施「まず低く」「頭を守り」「動かない」
  - 11月中旬 避難訓練② ストーブ使用時・休み時間の避難の仕方の確認

#### (4) 防災組織

組織名	担 当 者	任務
防火管理責任者	教頭	
本 部	校長・教頭	○防災全般の係編成と指導 ○対外関係の連絡と調整
情報伝達	教頭・教務主任	○警戒宣言の受理と伝達 ○避難命令の受理と伝達
避難誘導	各クラス担任	○児童の誘導と人数確認 ○本部への人数報告
		○保護者への引き渡し
搬出	年次ごとに変更	○非常持ち出しの表示と搬出 ○搬出物の管理と保管

消火	年次ごとに変更	○消火設備の準備と確認 ○初期消火
救 護	養護教諭	○救護所の設定 ○負傷者の救護
児童管理	教務主任·生徒指導係	○児童の保護 ○必要食料の確保 ○天幕張り
検 索	安全係・教頭	○校舎残留児童の点検と誘導
施設設備の点検	安全係・教頭	○日常および緊急時の施設・設備の点検・把握

# 3 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練の実施

- (1) 緊急地震速報受信機設置に関わる取り組み
  - ① 教職員に対する説明、研修
    - ・職員会議で設備状況と訓練の進め方について確認
  - ② 児童に対する指導

	7,1,7,0,1,1,1					
場所	児童の行動(教師不在でも同様・要指導)	教師の行動				
教 室	<ul><li>・出入り口を開ける。</li><li>・机の下にもぐる。</li></ul>	・担当はすみやかに教室に行く。				
	・帽子をかぶるなど頭部に注意する。	・人員を確認し、避難口を確				
	・指示に従い避難する。	保し避難場所に誘導する。				
	・近くの教室に入る。(教室と同様)	・教室で人員を確認し、避難				
	・入った学級担任の指示に従い避難する。	口を確保し避難場所に誘導				
廊下	・ゆとりのない時は窓ガラスや落下物のない柱に	する。				
	身を低くして寄り頭部を保護する。	・逃げ遅れている児童を合流				
	・その場で放送の指示に従う。	させ避難場所に誘導する。				
	・手すりにつかまり身をかがめ頭部を保護する。	・教室で人員を確認し、避難				
	・近くの学級に避難し、入った学級担任の指示に	口を確保し避難場所に誘導				
階段	従う。	する。				
110 47	・ゆとりのない時は窓ガラスや落下物のない柱に	・逃げ遅れている児童を合流				
	身を低くして寄り頭部を保護する。	させ、避難場所に誘導する。				
	・その場で放送の指示に従う。					
	・火気等の危険物を処理し、出入り口を開ける。	・危険物(火・ガス・電気)の				
特別教室	・身を低くして、机の下などに入り頭部を保護す	処理をする。				
	る。	・人員を確認し、避難口を確				
	・指示に従い避難する。 ・近くの学級に入り身の安全を図る。	保し避難場所に誘導する。				
	<ul><li>・近くの字板に入り身の女宝を図る。</li><li>・ゆとりのない時は窓ガラスや落下物のない柱に</li></ul>	<ul><li>取り残された児童がいない</li></ul>				
トイレ	するようのない時は恋ガラへや浴下物のない性に   身を低くして寄り頭部を保護する。	か確認しながら避難する。				
	・その場で放送の指示に従う。(教室と同様)					
		・トイレ、器具庫に児童がい				
	・出入り口を開ける。	ないことを確認し避難す				
体育館	・中央に集まり身を低くし、頭部を保護する。	る。				
	(しゃがんで頭を両手で押さえる。)	*天井、壁の状況に対応。				
	・できるだけ中央に行き、身を低くして頭部を保	技房で数担託に生入され				
校庭	護する。(しゃがんで頭を両手で押さえる。)	・校庭避難場所に集合させ、				
	・避難場所に行き自学級に合流する	落ち着かせる。				

- (2) 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練の実施
  - ① 平成29年11月8日(水) 休み時間
  - ② 想定:地震発生(震度5 30 秒後到着)後、火災発生

# 4 学校防災アドバイザーの関わり

(奈良女子大学 西村雄一郎准教授) 平成29年10月3日(火)に来校

- (1) 学校防災計画及び危機管理マニュアルについて(点検)
- (2) 訓練計画について(確認)
- (3) 校舎内の安全対策について(指導・助言)
  - ① 指導していただいた施設・設備

ア 窓ガラス

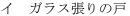
ガラスの散乱で、通行不能になる可能性ある。

本校は右の写真のように昇降口(玄関付近)、階段、



体育館ギャラリー等、窓ガラスが非常に多い。避難経路や避難場所・安全スペースの確保には 課題がある。

また、左のように廊下の幅は約2mで広いとは言えない。 あわてることなく、安全に避難するよう指摘があった。



可能な限り飛散防止フィルムを貼るよう指摘があった。





ウ つり下げ式のもの

天井や壁からの落下物 の防止や固定されていな い棚や器具の転倒に対す る対策を講じるように指 摘があった。

# 5 事業の成果及び今後の課題

- (1) 成果
  - ① 今まで見落としていた学校施設の危険箇所に気付くことができた。
  - ② システム導入により、情報が入った際の行動を確認する事ができた。

#### (2) 課題

- ① 危機管理マニュアルの見直し修正が必要である。また、村や地域、保護者との連携を考えていきたい。
- ② ショート訓練を実施したい。児童がいかなる非常持にも落ち着いて避難できるように、様々な想定での訓練も必要である。

#### 6 まとめ

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業の1年目に緊急地震速報システムを利用した避難訓練が実施できた。今後もアドバイザーの支援を受けながら、危機管理マニュアルを見直し、学校の状況に合致しているのか、全職員で見直し、児童が主体的に行動できるための防災訓練を実施していきたい。 (文責教頭塩澤裕二)





# 防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業の取組について

# ― 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練 ―

# 3 安曇野市立豊科南小学校

#### 1 はじめに

本校は、安曇野市の南に位置し、西に北アルプスを仰ぎ、近くを拾ケ堰が流れ、水田に囲まれており、自然豊かな学校である。

児童数 641 名、1年と5年が学年4学級で他の学年は3学級、特別支援学級4学級を含め全24 学級の中規模校である。広い校地を有し、1・2年生と特別支援学級が南校舎、3年生以上は北校舎でそれぞれの棟に独立している。また、バッテリー校舎のため、3年生以上の教室がそれぞれ独立した校舎になっている。

このようなことから、災害時には校地の到る所から児童が避難してくることが想定され、児童自身が防災教育の点から「自ら考えて避難できる」ことが大切であると考える。 本年度、緊急地震速報受信システムが設置された。第3回目の避難訓練ではシステムを使った訓練を行い、防災アドバイザーの指導をいただいた。

#### 2 学校防護団組織

- ○本部(校長、教頭、教務主任、防災係) ○連絡(教頭、教務主任、事務)
- ○統率(学年主任) ○巡視 ○初期消火 ○救護 ○救急医療

#### 3 緊急地震速報受信システム設置前の避難訓練について

- (1) 聞き取り訓練 4月7日(金)休み時間に実施
  - ①ねらい 新年度になり、緊急放送が落ち着いた状態でしっかり聞き取ることを 確かめる訓練を行う。また、緊急放送がどこの場所でも聞き取れるか を職員が確認をする。
  - ②指導内容 緊急放送がなった場合、その場にすわり落ち着いて放送の内容を聞き 取ることができたかどうか。また、各教室からの避難経路を覚えること、火災時の避難の仕方、放送の聞き取り、「おはしも」の確認をする。
- (2) 第1回避難訓練 4月11日(火)2校時実施
  - ①ねらい 理科室より出火、北風にあおられ燃え広がるおそれあり、避難経路を 確認し、安全に避難する。
  - ②指導内容 新年度になり、新しい教室からの避難経路を確認する。口を閉じて、 担任の指示をしっかり聞く。

(3)引き渡し訓練 6月 7日(水)午後実施

①ねらい 地震災害、不審者出没等により安全に下校するために引き渡しの方法

を保護者と共に確認する。

②指導内容 地震発生後自分の身を守り各教室で待機する。各教室から保護者への

確実な引き渡しを行う。

(4)第2回避難訓練 9月 1日(金)2校時実施

①ねらい 震度5弱以上の地震が発生。揺れが続く恐れがあることから、建物の

倒壊などに気をつけて校庭に安全に避難する。

②指導内容 揺れへの対応(机などの下へもぐったり、待避姿勢をとったりする)

安全な経路を通っての避難

#### 4 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

- (1)緊急地震速報受信機設置に関わる取り組み
  - ①教職員に対する説明
    - ア 職員会において、緊急地震速報受信機の機能についての周知
    - イ 以後の避難訓練での緊急地震速報受信機の利用についての連絡
  - ②児童に対する指導
    - ア 学級毎に緊急地震速報受信機の設置と働きについて指導
    - イ 聞き取り訓練による発信音、放送内容の周知
- (2) 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練
  - ①第3回避難訓練 11月8日(水)2校時実施(児童には予告しない)

ア ねらい

震度5弱の揺れ(緊急地震速報40秒 に設定)、地震速報及び緊急放送をきち んと聞き取ることができる。

#### イ 指導内容

- ・緊急地震速報を聞き、揺れに対応で きる姿勢をとる。
- ・ 自分の身を守る帽子などを身につける。
- ・放送を聞き、安全な経路を通って校 庭に避難する。



第3回避難訓練の様子

# 5 学校防災アドバイザーのかかわり

- (1) 避難訓練の想定・方法についてのアドバイス
  - ① 時間や場所等、様々な想定を考えて訓練を実施する。
  - ② 訓練の後の振り返りを行い、児童や職員が課題に感じたことを改善していき、実際に起こった場合にそなえる。

- ③ 少しずつ訓練のハードルをあげていく。(休み時間、調理の時間、掃除の時間等)
- ④ 1時間を使う訓練以外に、ショート訓練を実施し、帰りの学活等で自分の身の安全の確保がよかったかどうか振り返りを行う。
- ⑤ すぐに避難させるのではなく避難経路が安全かどうかを確かめてから避難させる。
- (2) 防災教育計画全体にかかわってのアドバイス
  - ① 防災教育に対し、不十分な点を洗い出し、1年目、2年目、3年目はどのように 防災教育に取り組んでいくか計画を立てる。
  - ② ショートの訓練、学校安全マップ、登下校時の安全マップなど、子どもの意識が高まるような活動を取り入れていく。
- (3) 校内巡視

実際の地震が起きた場合、どのようなことが起きるのかを考える。

- ① 教卓周辺の整頓、ラジカセ・オルガンが飛んでくる可能性がある。高いところに 物を置かない。
- ② 給食配膳台、テレビ等キャスター付きのものはすぐに動いて危険。固定する。
- ③ できるだけ廊下には物を置かないようにする。避難経路を確保する。
- ④ 教室内の設備や備品の安全な設置場所を考え、できるだけ固定できるようにする。

#### 6 今後の課題

- (1) 児童、職員にとって、緊急地震速報受信システムの発信音や音声はまだ聞き慣れないものであるため、ショートの訓練などを行い慣れていく必要がある。
- (2) 緊急地震速報受信システムの放送後の避難行動について、揺れの大きさや放送の 内容に合わせて、児童自身がどのようにして自分の身を守るか意識の向上をはか るとともに、具体的な方法を身につけられるように検討していく。
- (3) 教室での安全な場所の確保や備品の固定など安全な環境作りを行っていく。

#### 7 まとめ

緊急地震速報受信システムの導入により、地震に対しての避難行動や教室環境等について改めて見返す機会になり、職員・児童の地震への防災意識が高まった。万が一の時に実際にどのようにして、自分の身を守ればいいのか児童も考えることができるようになってきた。

防災アドバイザーの先生には事前と事後に来校いただき、避難訓練のあり方や校内の 安全環境について具体的にアドバイスをいただくことができた。職員だけでは気がつ かない点を多く指摘していただき大変参考になった。

今後、本校の課題について、早急にできること、計画的に行っていくことを検討し、 次年度の防災教育の計画に盛り込んでいきたい。

( 文責 教頭 内山一好 )

# 防災管理・防災教育の充実に向けた取組について

# 一 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 —

# 4 安曇野市立豊科東小学校

#### 1 はじめに

本校は、安曇野市の東に位置し、児童数 197 名の安曇野市で二番目に小さい学校である。学区の東には光城山をはじめとする筑摩山地が連なり、西には犀川が流れ、子ども達にとっては自然豊かな環境である。しかし、ひとたび地震や豪雨にみまわれると土砂崩落、河川氾濫の危険を抱える場所に立地する。

このようなことから、土砂災害も含めた災害の想定と避難経路について対策を考え、どの避難経路を通っていくかを自ら考えて自分の身を守ることができる子どもを育てることが大切だと考える。

今年度、緊急地震速報受信システムが設置された。本校では設置の前、夏休みに防災アドバイザー信州大学教授廣内先生に職員への講演をしていただき、意識を高めた。

11月に緊急地震速報受信システムが設置されてから、いろいろな想定でシステムを利用しての待避訓練を3回行い、年度3回目の避難訓練に防災アドバイザーの指導をいただいた。

#### 2 学校防護組織

- ○本部(校長、教頭、事務) ○児童統括(防災係) ○避難誘導 ○警備
- ○消火 ○搬出 ○救護

#### 3 第1回アドバイザーのご指導を受けて

- (1) ショート訓練をする前に、退避の仕方、退避場所の見つけ方を教えておいたほうがよいというご指導を受け、校内に地震が起きたらどうするかのイラストサンプルを、それぞれの場所に掲示した。
- ⇒ ショート訓練の時、どうしたらいいか、イラストを見て行動したと答 えた児童が多数いて、有効な手立てとなった。
- (2) 校内を回ってそれぞれの場所で、落ちてこない、倒れてこない、動い

てこない留め方、しまい方の工夫のご指導を受けた。ご指導の内容を場所別にチェックリストにまとめ、管理分担の場所を職員にチェックしてもらった。チェックリストと結果は次のページに載せた。

- ⇒ さっそく全校のテレビをそれぞれの教室に金具で固定した。
- (3) 職員室の非常持ち出し品の整理、調理室、被服室は指摘された収納場所を変え、危険のないようにできた。

# 防災チェックリスト

\*担当場所をチェックして、今できているもの◎、今年度中にできそうなもの ○,できそうにないもの△、をつけてもらった。

場所	項   目	チェック		
	給食台・・・ひもとナスカンなどで壁に固定	△多数		
	ラジカセ・・滑り落ちないように角材等で固定	△多数		
教室	又は、ひもとナスカンなどでハンドルを固定 '			
	大型テレビ・・定位置を決めて通常は紐などで固定	全校◎		
	水槽・・・ バンドなどで固定	Δ		
<b>立</b> 承 🗢	楽器スペースをまとめ、手前にコードカバー	Δ		
音楽室	ステレオなどキャスターのついたもの固定	$\triangle$		
非常階段	一度でいいから降りてみる	○多数		
廊下	置かなくていいものは置かない	◎多数		
パソコン室	モニターの下に滑り止めシート			
田利宁	軍手を常備 (熱いものや塩酸などを流しに移すとき)	0		
理科室	薬品やお湯の使用時に地震があった時の対処法を掲示	0		
□ 7 ☆	唐箕の固定			
図工室	キャスターの付いたかごの棚を固定			
	防災頭巾を常備	0		
調理室	なべやかまの置き場所を工夫	0		
	フライパンやお湯の使用時に地震があった時の対処法を掲示			
被服室	ミシンを棚に収納	0		
図書館	キャスターのついた棚や、本棚の上の小さな本立てを固定	0		
放送室	棚のデッキ類が出てこないように			
図書館廊下	両側硝子なので、ここで立ち止まらない			
啦号学	引き渡しカードやメガホンなど(非常持出)は、誰でもわか			
職員室	るように、倒れない棚に一括保管			

# 4 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

- (1) 待避のショート訓練
  - ①11/9 緊急地震速報システム取り付け
  - ②11/15 朝、放送で速報を流し説明
  - ③11月27日から12月5日までに、3回ほど待避までの訓練の機会をとる。27日休み時間、29日清掃時、12月5日日お昼休み・などで、1回5分ほど。<u>児童には知らせない</u>。クラスに1枚振り返りカードを配布。簡単に聞き取りをする。

#### ④待避場所

- ・ガラスのそば、蛍光灯の下、棚のそばをさける。
- ・落ちない、動かない、倒れない場所を校舎内で確認する時間を取る。
- 「校内にもし地震が起きたら」のイラストを掲示する。
- (2) ショート訓練のふりかえり (ふりかえりカードより)
  - ①速報を聞いてどこに待避したか。

	1 年			2	年	3	年	4 年			5 年			6 年		
	休み時間	清掃中	昼休み	休み時間	清掃中	清掃中	昼休み	休み時間	清掃中	昼休み	休み時間	清掃中	昼休み	休み時間	清掃中	昼休み
机の下	3	4	6	16	18	13	7	14	13	17	5	12	9	8	11	19
教室のはじ		1														
教室の真ん中		12	20				3					6	4		1	2
廊下の壁		3				6	20		2		5	7			6	
廊下の真ん中	2	8	2		9	7			1	1		2	3		7	1
階段の下							1									
南庭の真ん中	17				2											
昇降口から外									1			2				
校庭の真ん中		1			1			9		1	1	3			3	
トイレのすみ			1			4						1				
体育館の真ん中	1	3		10				1	7	1	1		11		1	1
体育館の壁	6										1			1		1
音楽室でそのまま								4	4	5	3		10	13		

- ②どうしてそこに待避したのか?
- (1年)・ガラスのないところへ逃げた。
  - 窓から離れようと思った。
- (2年)・手すりにつかまってという絵が見えたから。
  - ・机の下に逃げると書いてあったから (イラスト)
  - ・真ん中だと何もないから。頭を守るため。
- (3年)・倒れるものがない。
  - 机の下しかなかった。
  - ・棚の上だと危険だから降りた。
  - ・逃げやすそうだった。
- (4年)・上から物が落ちてきても頭に当たらないように。
  - ・体育館で物が落ちてくるのを防ぐために真ん中に避難した。
  - ジャンボ滑り台の上は危ないので、降りた。
  - ・何もない所へ避難した。
- (5年)・調理室では机の下に入れないため、窓ガラス、棚から離れて通路 にしゃがんだ。
  - 教室は清掃中で机を運んでいたため入れず真ん中の広い所にしゃがんだ。
  - ・窓、蛍光灯、扇風機からはなれてしゃがむ。
- (6年)・コンテナ室入口はたおれてくるものがないから。
  - ・1番近くにあって頭を守れそうだから椅子の下。
  - ・廊下を歩いていたので、体育館真ん中に避難。
  - ・職員室前廊下から安全だと思った外に避難した。

#### ③困ったこと

- ・図書館の机の下にもぐれなかった。
- ・音楽室で楽器や人が多く、十分な避難ができなかった。
- ・音楽準備室はどこへ避難したらいいかわからなかった。
- ・校庭が地割れしたらどうするか。
- ・机の下に体が入りきらない(足が出てしまう)
- ・机の上に物が落ちてきて机がこわれたらどうする?
- ・机のない(少ない)教室はどこへかくれて頭を守ればよいか。
- ・本棚がある場合どこへかくれる?逃げる?
- ・上から降りるとき危険
- そばにいる人と逃げるべきか。
- ・校庭付近にいたとき校庭にいくべきか?その辺りに待避か?
- ⇒「困ったこと」はアドバイザーにメールで送り、緊急地震速報システムを使った避難訓練の後の講演会の内容に入れていただいた。

#### (3) 第3回避難訓練実施計画

#### ①目的

地震発生時に、自分の生命の安全が保たれるように、避難方法や避難経路を確認し、迅速かつ安全な避難行動が取れるようにする。

- ②日時:12月13日(水) 休み時間~第3校時 警報装置設置の遅れにより、冬季の校庭への避難は様々なリスクが想定 されるため避難場所は体育館とする。
- ③訓練の重点
  - ア 授業以外の時間に地震が起きた際の安全な身の守り方の確認
  - イ 避難方法の確認 (緊急地震速報⇒避難指示放送⇒避難)
  - ウ 行動の振り返りをしてマニュアルに生かす。
  - エ 防災アドバイザーの講演を聞いて日常の防災意識を高める。

#### ④事後指導

ア 振り返りカードの観点

- 1) どこにだれといたか。
- 2) 放送を確実に聞き取れたか。・どこへ待避したか。
- 3)物が『倒れてこない・落ちてこない・動かない』場所へ待避できたか。
- 4) どんな声掛けをしたか、されたか。
- 5) どこを通って避難したか
- 6)「お・か・し・も」で、落ち着いて避難できたか。
- 7) 高学年は低学年まで気を配れたか。

# イ 振り返りカードより

- ・「緊急放送を聞いて安全な通り道を考えて避難できたか」はほとんどの児童ができていたが、「『お・は・し・も』で落ち着いて避難できたか」は『はしらない』、『しゃべらない』ができなかったと答えた児童も多かったので、今後の指導を工夫したい。必要な声がけと区別したい。
- ・声がけされたのは先生からが多く「窓から離れて、ガラスが危ない。」「こっち通って。」などだった。友達からの声がけでは、「一緒に行こう。」「机にかくれて」などだが、友達からの声がけの有無はクラスによって差があった。共助という観点からも必要なときに必要な声がけができるようにしていきたい。
- ・退避行動の後いつ机から出ていいのか困ったという振り返りも多かった。マニュアルの見直しと共に行動の流れも整理したい。

- 4 学校防災アドバイザーのかかわり (信州大学 廣内大助 教授)
  - (1)10月13日(木)事前打ち合わせ来校
    - ①本校の訓練計画について、近隣校の様子を紹介いただきながら段階的かつ学校の実態に応じた多様な訓練方法を示していただいた。
    - ②打ち合わせ後、校舎内外を見学。教室や廊下にある視聴覚機器やロッカー、棚などの安全対策について、細かく丁寧にアドバイスをいただいた。
  - (2)12月13日(水)避難訓練当日来校
    - ①休み時間、児童には知らせない設定での避難訓練を見ていただいた。
    - ②避難訓練の後低学年、高学年に分かれてそれぞれ 30 分ほど、「いざという時のために何ができるのか?」というテーマの講演をしていただいた。
    - ③次回および次年度の取り組みについて打ち合わせを行った。

#### 5 事業の成果と課題

- (1)緊急地震速報の導入により、地震に対しての避難行動について改めて見直す機会になり、職員・児童の地震への防災意識も高まった。
- (2)ショート訓練の後や避難訓練の後の振り返りが参考になった。結果を分析して次の課題や緊急マニュアルの見直しに生かしたい。
- (3)ショート訓練は時間がかからないので、月1回程度実施していきたい。
- (4)来年度は教室(特別教室を含めて)での安全な場所の確保や、備品の固定など安全な環境作りを行っていく。

( 文責 教諭 卯之原紀子 )

# 防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業の取組について

― 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練 ―

# 5 安曇野市立豊科北小学校

#### 1 はじめに

本校は、糸魚川一静岡構造線の外縁に位置し、内陸型地震の発生確率が極めて高い場所に立地している。そのために、より実践的で効果的な避難訓練が要求され、児童一人ひとりが自分の身は自分で守る意識を育てることが急務となっている。そこで、「緊急地震速報受信システム」を導入し、防災アドバイザーによる指導を受けることで、児童や教職員の防災意識の向上を図った。

#### 2 本校の防災体制について(概要)

毎年「学校防災計画」の見直しをするとともに、年度初めに「学校防護団」「避難経路図」「休憩時避難誘導分担図」の確認と掲示を行い、教職員への周知徹底を図ってきた。また、年3回の避難訓練や保護者への引渡し訓練を通して、児童自らが考え、安全意識を持ち、自分の命を大切にしていく態度を育成する体制作りを目指してきた。

#### 3 緊急地震速報受信システム設置前の避難訓練について

- (1) 第1回避難訓練(4月中旬実施) 授業中の火災を想定して行い、避難経路の確認と安全な避難の仕方を身につける。
- (2) 引き渡し訓練(5月下旬実施) 災害等緊急時に、保護者に引き取りに来てもらう必要がある場合の引き渡し方を身 につける。
- (3) 第2回避難訓練(9月上旬実施)

授業中の地震とそれにともなう火災を想定して行い、地震や火災の際の安全な避難 の仕方を身につける。

防火扉を閉めて訓練を実施し、防火扉を通る避難の仕方を身につける。

(4) 第3回避難訓練(11月上旬実施)

児童に訓練の予告をせず、休み時間の火災を想定して行うことで、避難指示の放送 を聞き、自分で判断して安全な避難経路を通り避難する方法を経験する。

緊急放送を聞くところまでを行う事前訓練を実施することで、放送を聞くことに重 点を置くとともに、個々で落ち着いて対応できるよう配慮をする。

# 4 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

- (1) 緊急地震速報受信機設置に関わる取り組み
  - ① 教職員に対する説明・研修
    - ア 10月10日に信州大学島田英昭教授が来校し、教頭と防災教育係が11月に行 う緊急地震速報受信システムを取り入れた避難訓練計画案について指導を受 けた。
    - イ 10月25日の職員会議にて、緊急地震速報受信システムを取り入れた避難訓練 のねらいや方法、改善点について説明をした。
    - ウ 受信機が作動した場合の対処方法について研修を行った。
  - ② 児童に対する指導
    - ア 緊急地震速報の仕組みや役割について各学級で指導を行った。
    - イ 緊急地震速報が鳴ったときに、自分の居る場所でどのように身の安全を守れ ばよいのかを、資料を配布・提示して学習をした。
- (2) 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練システム導入に伴い、第3回避難訓練に実施した。
  - ① ねらい

休み時間の地震を想定した訓練で、緊急地震速報が鳴ったら落ち着いて身の安全を守り、自らの判断で迅速かつ安全に避難することができる。

② 日時

事前練習 10月31日 休み時間(10:30~10:35) 避難訓練(本番)11月 7日 休み時間~3校時(10:30~11:15)

- ③ 訓練の重点
  - ア 授業時間外に地震が起きた際の安全な避難方法について確認する。
  - イ 緊急地震速報が鳴ったときの身の安全の守り方を知る。(落ちてこない・倒れてこない・移動してこない 安全な場所にすばやく移動し、頭を守ってしゃがむ。)
  - ウ 避難指示の放送が流れたら最後までだまって聞き、指示に従って避難する。
  - エ 避難行動の振り返りを行い、地震時の適切な対応を学ぶ。
  - オ 教職員は、分担場所の児童に的確に指示をし、安全に避難させる。
- ④ 訓練の流れ

# 緊急地震速報

→ ・各自が居る場所に応じた身の安全確保をする。

#### 避難指示と避難

→ ・避難場所を聞きとり、安全なところを通って避難する。

# 校内巡視

→ ・教職員が、逃げ遅れた児童やけが人がいないか確認する。

#### 人員確認

↓ ・学年・学級毎に整列し、教職員が人員確認を行う。

#### まとめの会

→ ・消防署員、島田英昭教授、学校長の話を聞く。

#### 学級毎に振り返り

- ・ワークシートを用いて個々に振り返りを行った後、全体で振り返る。
- (3) 学校防災アドバイザーから受けた指導
  - ① 事前指導(緊急地震速報を聞いたとき、どのように行動したらよいか)と事後 指導(緊急地震速報を聞いたときの行動を振り返る)をしっかり行い、情報の共 有を行うと共に、実際の避難に役立てられるようにすること。
  - ② その場所に応じた身の守り方や避難ができるよう、常に様々な場所での対処 方法について、各自や家族で考えておくこと。





# 5 事業の成果及び今後の課題

- (1) 本校の実態に合わせて的確にアドバイスをいただき、今までの訓練のよい点や改善点が明らかになった。
- (2) 緊急地震速報受信システムの導入により、教職員が行う指示放送を待たなくても 児童が身の安全を守る行動をとることができ、より早い安全確保が期待できる。
- (3) 緊急地震速報を聞いて身の安全を守るためには、児童が自ら判断し行動できる力が必要になるので、そのための指導や訓練の工夫・改善を進めていきたい。

( 文責 教頭 松岡一成 )

# 防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業の取組について

― 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練 ―

# 6 安曇野市立堀金小学校

#### 1 はじめに

本校は北アルプスの南東に開けた安曇野市の堀金地区に位置している。明治 19 年、学区 改定により 5 校が廃止され「村立堀金学校」(烏川・小倉・科布村連合)として開校以来、平成 28 年で 130 周年を迎えている。その後幾多の変遷があり、昭和 30 年三田村・烏川村の合併で「堀金村立堀金小学校」、平成 17 年の町村合併により「安曇野市立堀金小学校」と校名を変えてきた。現在の学校規模は 22 (うち特別支援学級は 3)学級で、児童数は 561 名である。ここ 10 数年ほどは、松本市のベッドタウンとして住宅数も増加したが、今後は減少が予想される。

安曇野市が作成したハザードマップによると、本校は土砂災害警戒区域や浸水想定区域からも離れ、安全と思われる場所に立地し、指定避難所に指定されている。しかし、市内東部を南北に糸魚川一静岡構造線(推定位置は本校から直線距離で約5km)が走り、震度7クラスの大地震が起きる可能性は非常に高い地域である。それらに対処するために、本年度は「実践的安全教育総合支援事業」の指定を受け、「緊急地震速報受信システム」を導入した。学校防災アドバイザーとして、信州大学教育学部の廣内大助教授に指導をお願いして、助言をいただきながらの実践的な訓練を重ねていくことで、いざという時に自ら判断して行動できる児童の育成を目指した取組を始めたところである。

# 2 防災体制について

#### (1) 本校の防護団組織について

係名	担当者	主な業務内容				
本 部 (通報連絡含む)	校 教 朝 教務主任 安全係 事務職員	<ul><li>・全体統括・指導</li><li>・外部連絡・緊急速報・報告</li><li>・児童,職員,施設等の被害状況等の把握</li><li>・避難命令の通達・消防署・警察署・関係諸機関への連絡・保護者への連絡</li><li>・外来者受付</li></ul>				
警備・点検係 ・安否確認 ・災害状況確認 ・二次被害防止	年度毎変更	<ul><li>・校舎内残留児童の確認</li><li>・外来者の誘導</li><li>・交通整理</li><li>・被害状況の把握と安全確保、危険箇所などへの立ち入り禁止措置、二次災害防止</li><li>・校舎内外の備品等の盗難防止、警備</li></ul>				

避難誘導係	教務主任 学年主任	<ul><li>・避難場所への児童誘導と把握(人員確認等)及び本部への報告</li><li>・第二次避難場所への避難経路確保と安全な誘導</li><li>・通学路の安全確認</li><li>・保護者への児童引き渡し、残留児童の安全確保</li></ul>
救護	養護教諭 他	・怪我人の救護及び応急手当、応急措置後の救援要請 ・応急医療用具・薬品確保 ・校医や医療機関への連絡 ・児童の心のケアの実施
搬 出 (救援物資係)	年度毎変更	<ul><li>・非常持ち出し品の搬出</li><li>・非常持ち出し品の確認・保管(日常)</li><li>・本部及び各分担の運営に要する備品類の確保</li><li>・残留児童及び教職員の食料、飲料水、寝具、防寒具など確保</li></ul>
消火係	年度毎変更	・初期消火活動 ・消火設備の点検確認(日常) ・電源・ガス栓・ストーブなどの安全確認

#### (2)緊急地震速報受信システム導入前の避難訓練・引き渡し訓練

緊急地震速報受信システムの導入が決定後、より実際に起きた時の状態に近付けて避難訓練を行うために、3,4回目と避難訓練計画の見直しを行った。(ゴシック箇所)

- ① 4月28日(金)火災避難訓練…避難経路、職員分担等の確認
- ② 5月27日(土) 地震避難訓練, 引き渡し訓練
- ③ 9月28日(木) 地震避難訓練 放送機器使用不可想定を追加
- ④11月 7日(火)地震避難訓練 ③の反省を生かし、再度、放送機器使用不可想定

# 3 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

- (1) 緊急地震速報受信機設置に関わる取組
- ア 教職員に対する説明、研修
  - ・緊急地震速報受信機設置前に、教頭と係が操作方法について説明を受けた。
  - ・12 月 11 日の職員朝会で、係より職員へ緊急地震速報受信機について説明すると共 に、ショート訓練時に児童に求める行動について研修した。
- イ 児童に対する指導
  - ・12 月 12 日に実施するショート訓練前に、係より全校放送で緊急地震速報受信機について説明をし、その音に慣れるために訓練モードを利用して実際に放送で流すことをした。その後、放送を聞いたら、素早く机の中に頭を入れて身を守る行動がとれるように各担任が事前指導を行った。

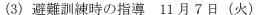
# (2) 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

12月12日(火)に、緊急地震速報受信システムの訓練モードを利用して、地震に備えるためのショート訓練を実施した。朝の会の時間に訓練放送を全館一斉に流した。緊急地震速報の音は聞き取れたか、安全を確保する行動がとれたか、黙って待つことができたかを評価の観点とした。休み時間の地震が起きたらどうするかについても考えさせた。

#### 4 学校防災アドバイザーの関わり

本年度は、アドバイザーの廣内教授と安曇野市教育委員会の宮川主査にご来校いただき、次のようなアドバイスをいただいた。

- (1) 事前打ち合わせ 9月5日 (火)
  - 校内を一緒に歩いて頂き、アドバイスを頂いた。
  - ア 正面玄関は大きなガラスが多いため、玄関横の強化ガラスのところを避難口にする方法もある。また、安全確保のために全てのガラスではなく、数枚に飛散防止フィルムを貼るという方法も考えられる。
  - イ 休み時間や清掃中に地震が起こった際に、どこにしゃがむのが安全かを考えてい く必要がある。また、各教室でオルガン等の大きなものが避難口の近くにないよ うに置いておく必要がある。(避難口の確保)
  - ウ 持ち場を決めて整理整頓すること、低い場所に荷物は置くことなどが、子どもが けがをする機会が減ることにつながる。
- (2) 避難訓練時の指導 9月28日(木)
  - ア 計画では地震がきたらすぐにカーテンを閉める とあったが、教員自身が安全確保をしていない ことがないようにする。
  - イ 校内の安全確認の際に、事前に誰がどこを見て くるかを決めておくとよい。しかし、「誰が」と いう担当は不在のこともあるので柔軟に対応し ていくことが必要。
  - ウ 職員の安全確認のためにも校内で最終の安全確 認を受けるより、校庭へ出て最終安全確認を受ける方がよい。



ア 教師の安全確認の方法を変えたことにより、前回よりもスムーズに避難することができたが、クラスによっては教師の指示を待ってから机の下に潜っていたので、音を聞いてすぐに机の下に潜れるようにしていくとよい。

イ 授業中だけでなく、休み時間や清掃時間などにも訓練ができるとよい。

# (4) 職員の課題〉

- ア 休み時間等に地震が起きた際に、子どもたちがどのように行動すればよいか、場 所ごとに職員間で共通認識が必要であること。また、それを子どもたちにわかり やすく伝える示す工夫が必要であること。
- イ いざという時に、どんなことが起こりうるのか、それを回避するためにどんな準備や周知が必要であるか、更に考えておく必要がある。

# 5 事業の成果及び今後の課題

- (1) 防災アドバイザーに事前・訓練中に指導を受けたことで、これまでとは異なった視点で避難訓練のあり方や校内の安全環境について考えることができた。
- (2) 緊急地震速報システムを設置していただいたことにより、システムを活用したショート訓練をすることができ、最初の速報音で迅速に反応する訓練が繰り返しできるようになった。
- (3) ご指導いただいたことを元に、校内施設のさらなる安全対策を講じていくと共に、 緊急地震速報システムを活用した訓練を来年度の計画に入れていき、教職員・児童 の防災意識を更に高めていきたい。

(文責 教頭 石井克之)

# 防災管理・防災教育の充実に向けた取組について

# ― 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 ―

# 7 安曇野市立明科中学校

#### 1 はじめに

本校は、安曇野市の北東に位置し生徒数 214 名の学校である。近年、安曇野市は大きな地震に見舞われてはいないが、平成 26 年には白馬村を震源とした最大震度 6 弱の地震が発生している。安曇野市は、糸魚川静岡構造線上に位置し、特に本校は活断層付近に位置していることから、今後 30 年以内に震度 6 弱以上の地震に見舞われる確率が高いと言われている。そこで、より実践的な避難訓練が要求され、生徒一人ひとりが「自分の身は自分で守る」意識を育てることが急務となっている。そこで、「緊急地震速報受信システム」を導入し、学校防災アドバイザーの指導を受けることで、生徒・教職員の防災意識の高揚を図った。

# 2 防災体制について (概要)

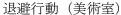
「学校防災計画」によって災害時の防災に備えている。防災組織は、校長を本部長、教頭を副本部長として、生徒監督、搬出、消火、巡視、救護の5つの係を編制し、全職員で組織している。年度当初の安全防災教育係の計画で年間3回の避難訓練を実施しているが、やや形式的な避難訓練になっている。なお、第1回目の避難訓練では、明科地区小中学校3校の引渡し訓練を行っている。

今年度は、県の「学校防災アドバイザー派遣活用事業」により、信州大学教育学部教授 廣内大助 先生に2回ご指導をいただいている。

#### 3 緊急地震速報受信システムを利用した避難訓練

- (1) 11月6日(月) 11:50~12:40 【市教育委員会 宮川主査 参観】※緊急地震速報受信システムを設置後、初めての避難訓練。
- ①緊急地震速報音(退避行動の指示)
- ②巡視係による被害状況の確認
- ③避難経路の決定
- ④校庭への避難指示
- ⑤避難
- ⑥人員点呼
- ⑦まとめの会(振り返り)







避難の様子

- (2) 11月16日(木)15:45~15:48(清掃時)シェイクアウト訓練
  - ※年間行事計画にはなかったが、11 月 6 日実施の避難訓練の反省や市教委 宮川主査 のアドバイスを踏まえて実施。
  - ①朝学活でシェイクアウト訓練の事前指導。指導内容は、清掃時にシェイクアウト訓練 を行うことと緊急地震速報音で身の安全を確保すること。
  - ②15:45「緊急地震速報音」生徒は各清掃分担場所で大きなもの、重いものが落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所へ移動し、身の安全を確保。職員は各学年の清掃分担場所に分かれ、緊急地震速報音に対して適切な行動ができていない生徒に指導。
  - ③帰学活でシェイクアウト訓練の振り返り。 反省用紙記入。



退避行動 (職員室)



退避行動 (普通教室)

# 4 学校防災アドバイザーの関わり

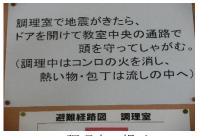
- (1) 8月25日(金)15:40~16:40 校内巡視、職員研修(教頭、防災係) <アドバイスいただいた内容>
  - ・棚等倒れてくるもの、落下してくるもの、電子黒板やテレビ等キャスターで移動 してくるもの等があるので、固定や退避場所等の表示を行う。
  - ・授業中活動しているときに地震が起きたらどうするか、各教科でまとめる。 例:理科の実験中、調理実習で鍋やフライパンの使用中、アイロン使用中など
- (2) 11 月 16 日 (木) 15:30~16:30 シェイクアウト訓練参観、職員研修(教頭、教務主任、防災係)

#### <アドバイスいただいた内容>

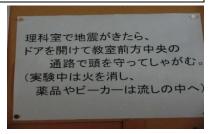
- ・清掃中、慣れていない状況でのシェイクアウト訓練だったので、どう行動すれば よいか分からない生徒もいたが、訓練を繰り返すことにより改善される。
- ・緊急地震速報音から数秒で地震が来るので、わずかな時間で退避行動や防御姿勢 をとれるようにしたい。
- ○昇降口の下駄箱の固定など、すぐに対応してあり、すばらしい。
- ○特別教室の「地震が起きた際の退避行動等を示した掲示」が、わかりやすく、見 やすい場所に貼られていてよい。
- ○家庭科の授業(住まいの災害対策)のまとめが廊下に掲示されていてよい。



下駄箱の固定



調理室の掲示



理科室の掲示



家庭科室前廊下の掲示

# 5 事業の成果及び今後の課題

防災アドバイザーの指導を受けたことにより、これまでとは別の視点で、自校の防災体制について考えることができた。これまでの防災体制に加えて、新たな試みに取り組むことで防災意識を高めることにつながった。また、緊急地震速報受信システムを設置していただいたことにより、実際に地震が発生したときに速やかな安全確保が図られ、形式的な避難訓練からより実践的な避難訓練へ移行するきっかけとなった。

今後、校内施設のさらなる安全対策を講じると共に、災害時に生徒・職員が即座に安全行動をとれるようにしていきたい。3学期もシェイクアウト訓練を実施予定。これは、来年度も学期に1回程度継続して行い、即座の退避行動を定着させたい。

今年度は、防災アドバイザーによる研修を教頭、教務主任、防災係を中心に行ったが、 来年度については、防災アドバイザーによる全職員対象の研修や生徒への全体指導を 行いたい。また、今年度、市教育委員会 宮川主査からも多くのアドバイスをいただい た。「学校防災」への取組は、学校はもちろん、中学校区の小中学校、地域、市教育委 員会、市危機管理課等、様々な連携が必要になると考えられる。その意味でも、宮川主 査の係わりはとても有益でありがたかった。

( 文責 教頭 丸山浩芳 )